



一般
社団法人 電池工業会
BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

〒105-0011
東京都港区芝公園三丁目5番8号
機械振興会館内
電話 (03) 3434-0261 (代)
ホームページ <https://www.baj.or.jp/>
ご意見・お問い合わせ <https://www.baj.or.jp/contact/>
発行人 清水義正

2025年10月号

でんちフェスタ in 静岡を開催

一般社団法人電池工業会は、9月27日(土)に静岡科学館る・く・る(静岡市)にて、「でんちフェスタ in 静岡」を開催した。

来場した多くの子供たちや同伴の保護者の方々には、様々な催事を通して終日電池について学んでいただいた。

“でんちフェスタ”は、電池を広く一般の方々に再認識していただくことを目的に実施しているイベント。会場の“静岡科学館る・く・る”には、多くの親子連れが訪れ、電池のことを楽しく学ぶ「電池エネルギー体験教室」や「手作り乾電池教室」、「こども電池O×クイズ」などのイベントを楽しんだ。



電池エネルギー体験教室

人気の「電池エネルギー体験教室」は、パン、バナナ、備長炭などを使って電池を作り、IC メロディーを鳴らす体験コーナー。



パン電池

作った電池で、IC メロディーを鳴らす場面では、「ほんとに、音が鳴った!」「おもしろい!」と驚きの声が多くあがり、参加した親子連れに大変好評であった。



手作り乾電池電池教室

「手作り乾電池教室」では、電池キットを組み立て、自分で描いたオリジナルラベルを巻いて、世界に一つしかない自分だけの乾電池を完成させる。



その乾電池を使って動くおもちゃの“虎の子”で競争させると、早く走るもの、なかなかゴールできないものなどさまざまで、こちらも親子連れに大好評で、笑顔と歓声があふれるイベントとなった。



虎の子レース



ども電池〇×クイズ

ども電池〇×クイズでは、電池に関する知識をクイズ形式で学ぶことができるが、全問正解者の賞品は、なんと単三乾電池 200 本を山分け。これには、みんな大喜びで、俄然やる気になっていた。



JBRC コーナー

JBRC コーナーでは、小型充電式電池の回収・リサイクルについて、クイズなどで楽しく学べ、かわいい賞品がいっぱいもらえ、大人気であった。

2025 年度 第 2 回一次電池部会を開催

2025 年 9 月 10 日（水）、植松部会長（セイコーインスツル株式会社）を議長に 2025 年度 第 2 回一次電池部会を Web 会議で開催した。開会に際して、植松部会長より BAJ 競争法コンプライアンス・ルールに則り、部会進行する旨の宣言がなされた。清水専務理事の挨拶、続いて前回議事録の確認後、各委員会代表者より、これまでの活動報告を行った。

.....

（1）部会長の挨拶

残暑厳しい日が続いておりますが、これから季節の変わり目となりますので、皆様におかれましては体調管理に十分ご留意くださいますようお願い申し上げます。

また、各委員会の集まりや意見交換等をご予定されている場合には、これから本格的な観光シーズンに入りますので、宿泊や会場等の予約手配につきましては、早めのご対応をお願いいたします。

（2）専務理事の挨拶

2025 年正賛合同会議が、9 月 5 日に北海道にて開催されました。会員 15 社、賛助会員 68 社、総勢 139 名のご出席をいただき、盛大に執り行われました。只信会長からは、電池の用途拡大、エネルギー分野における投資動向、世界の蓄電池政策と日本の政策、品質による競争力強化についてご講演いただきました。

私からは、工業会活動についてご報告し、特に最近増加傾向にあるリチウム電池の発火原因と処理について、また、資源有効利用促進法の改定に伴い、改定前後の違いを説明し企業の責務がより細分化される点について、お話をいただきました。

さらに、講演会では、元オーストラリア全権大使の山上信吾様にご登壇いただきました。山上様には、実務経験に基づき、現在の国際情勢や日本外交の課題についてご講演いた

できました。特に「日本外交の劣化」というご著書を踏まえ、日本の外交力低下への対応策について示唆をいただき、参加者からは非常に参考になったとの声が多く寄せられました。

（3）新委員の紹介

新委員 1 名が紹介された。

（4）審議事項

各専門委員会の活動報告

①ボタン電池回収推進委員会

資料を基に下記の報告があり、承認された。

* 回収実績（4～8 月）

・協力店数、回収依頼件数ともに微増

* 野村興産 イトムカ鋳業所 訪問（8 月 8 日）：委託先の処理現場の定期確認

* 空気亜鉛電池の水銀含有量調査：低減傾向が継続

②器具委員会

資料を基に下記の報告があり承認された。

* 委員会開催実績について

* 活動状況

・BAJ ホームページ「携帯電灯の正しい使い方」の改訂審議

・「電池器具安全確保のための表示に関するガイドライン」の改訂審議

・委員会活動における視野拡大を目的とした視察研修会の検討

③資材委員会

資料を基に下記の報告があり承認された。

* 第 2 回 資材委員会の活動報告

- ・2025 年度 活動計画の詳細検討（4 回+JOGMEC 意見交換会、内 Web 会議 2 回）
- ・主要 4 材料（亜鉛・リチウム・ニッケル・コバルト）の需給動向、価格動向の確認
- ・コンプライアンス（下請法他）に関する意見交換
- ・視察研修会の報告

④消費者委員会

資料を基に下記の報告があり、承認された。

* 活動報告

- ・支援物資の供給可能数の定期報告について
- ・「有事発生時の支援物資供給対応業務マニュアル」の改訂の報告
- ・視察研修会について

⑤ P L 委員会

資料を基に下記の報告があり、承認された。

* 活動報告

- ・2024 年度一次電池重要クレーム情報まとめ
- ・NITE 速報/国民生活センター 事故情報の共有
- ・視察研修会の視察先検討
- ・BAJ ホームページの「電池の正しい使い方」などの改訂検討

⑥技術委員会

資料を基に下記の報告があり、承認された。

1.JIS 規格原案作成

- ・改正素案を作成し JSA に提出。9/12 に素案作成委員会開催予定

2.IEC/TC35（一次電池）関連規格

IEC 国際会議（米国/アトランタ）に向けた審議を実施。

- ・IEC 60086-1 ED14 FDIS 12 月, IS 発行 2026 年 4 月の見込み。
- ・IEC 60086-2 水溶液系と非水溶液系に分割する規格が開発中。CDV 承認

済み。

IS 発行は、86-1 と時期を合わせる。

- ・IEC 60086-4 ED6 IS 発行済。
- TR60086-7 ED1 CD 発行済。TR 発行 26 年 4 月見込。
- ・IEC 60086-5 ED6 の規格開発がスタート。
- ・IEC 60086-6 ED2 に向けた CD 原案が回覧され、コメント募集と各地域別の法律や規制に関する情報更新が求められた。
- ・IEC62281 ED5 に向け RR の発行と CD 回覧を予定。

3.コイン形リチウム二次分科会

- ・IEC 61960-4 AMD1 ED2 CDV 投票期限は 10/17。
- ・IEC62133-2 ED2 CD2 コイン形二次電池の技術について、試験の対象範囲が不明瞭であるため、PL に会議を提案し、修正案についての合意を得る。
- ・日本時計協会 ISO12819 への二次電池の追加、TC114 の組織再編の情報共有があった。

4.その他

誤飲事故調査アンケート

- ・一次アンケートを送付し回答率 38%。
- 二次アンケートは 11 月送付で 26 年 5 月に結果公表予定。

⑦国際環境規制総合委員会

資料を基に下記の報告があり、承認された。

- * 11 月のリサイクル施設の視察先： J X 金属サーキュラーソリューションズ敦賀に決定
- * 地域別環境規制アップデート
- ・欧州：LMT のカーボン・フットプリントの計算手法に関する報告書、電池デューデリジェンス義務の適用を 2 年延期、ECHA が PFAS 規制提案の更新版公表
- ・北米：ミネソタ、カリフォルニア各州の

PFAS 規制法、コロラド、ネブラスカ各州の
携帯型電池及び中型電池の EPR 法

- ・中南米：特記事項なし
- ・アジア：韓国 EPR 及び RoHS 制度、台湾リサイクル料金、香港、「水銀規制条例」の改正
- * 今後の活動計画
- ・「世界の電池 環境規制の状況(第 14 版)」作成 (2026 年 6 月発行に向けた準備)
- ・国際会議：ICBR (9 月@スペイン) 及び TWG+ (11 月@メキシコ)
- ・リサイクル工場視察 (11 月 J X 金属サーキュラーソリューションズ敦賀)

⑧広報総合委員会

資料を基に下記の報告があり、承認された。

活動報告

(1) PR 活動

① コイン形・ボタン形電池の乳幼児誤飲事故防止

- ・Instagram のショート動画を活用し、8/29 に啓発を実施。実績を確認し、来年度の広告配信について検討していく。
- また、育児系アプリ“mamari”に啓発記事を 12 月掲載予定。

② 自動車用バッテリーの定期点検・買い替え促進

- ・天気情報アプリ“tenki.jp”に啓発広告を 8 月に掲載。想定クリックに満たないことや、夏場の記載もあることから、8 月末で取り止め、余剰費用は今後予定している

Youtube での啓発に厚みをもたせ、冬場の啓発に注力していく。

- ・ラジオ TOKYO FM で 8 月に啓発広告を発信。

③ 小型充電式電池の回収・リサイクル、廃棄時の注意喚起

- ・神奈川のローカル TV(tvk)で CM 放送に向け準備中で、実施時期について検討中。

(2) キャンペーン

- ・「でんち川柳コンテスト」を 9/1 に応募開始。

(3) イベント活動

- ・経済産業省こどもデー (8/6,7) にエネルギー体験教室と手づくり乾電池教室を出展。421 名のお子様にご参加頂き大盛況であった。

- ・でんちフェスタは、9 月 27 日静岡開催に向け準備中。

(5) 事務局報告

1) 統計データ報告

2025 年度 7 月度までの販売数量・販売金額の自主統計について報告。

2) 委員登録

2025 年度 電池工業会 一次電池部会 委員登録 (2025 年 9 月 1 日更新)

3) 次回開催日程

2025 年 12 月 24 日 (水) 13:30～15:30 オンライン会議

以 上

第 116 回 二次電池第 2 部会を開催

2025 年 9 月 11 日（木）、松村部会長（GS ユアサ株式会社）を議長に、第 116 回二次電池第 2 部会を機械振興会館での対面会議で開催した。開会に際して、BAJ 競争法コンプライアンス・ルールを遵守することが確認されたのち、松村部会長ならびに清水専務理事より挨拶があった。続いて前回議事録の確認後、各委員会の代表者より、これまでの活動報告を行った。



松村部会長



清水専務理事

1. 部会長挨拶

トランプ政権の関税政策、日本の政権不安定な政治状況の中で、ビジネス環境も厳しい状況が続きますが、政策を打ち出し牽引して頂くことを期待しております。

経産省もいろいろな動きがあり、バッテリー業界としてはその動きに対応したいと考えております。

2. 専務理事挨拶

8 月 27 日、経産省から現在の蓄電池戦

略進捗と追加投資支援の説明がありました。令和 7 年概算予算 1778 億円の公募で、個社ごとにエントリーをお願いします。

9 月 1 日、環境省主催で地方自治体に対してリチウムイオン電池の処理についてオンライン説明が実施されました。ゴミ処理中に発火して火災になる事故が増加していることが背景にあり、詳細までは決まっていますが、地方自治体に処理を依頼する方向です。法律を守らない外国製がゴミとして処理すると日本企業の競争環境に不利になるので、JBRC と共に環境省、経産省の動きに注視していきたいと思います。

資源有効利用促進法が 2026 年 4 月に改正され、モバイルバッテリー、スマホ、加熱式タバコの 3 製品が指定再資源化製品に追加されます。各業界団体の動きを冷静に見てしっかり回収して頂きたいと思います。

9 月 5 日、正賛合同会議を開催し、会員 15 社、賛助会員 68 社、総勢 139 名が出席されました。前オーストラリア全権大使の山上信吾氏が日本外交の劣化というテーマで講演を行いました。

3. 各委員会報告

◆技術委員会

(1)各分科会報告

<リチウム二次分科会>

- ・IEC62133-2(ポータブルリチウム二次安全)改訂：10 月開催予定の SC21A WG4 & PT62133-2 会議に向け、CD2 にて規定される Scope として、内部抵抗 3Ω 超えるコインセルを除外し、また、容量が 300mAh 以上または内部抵抗が 3Ω 以下のコインタイプ以外のセルの試験要求を審議した。
- ・JIS C62133-2 において、リチウムイオンポリマー電池は FISC 試験が適用除外となっているが、「ポリマー」かどうかの判断に関する質問があり、セル製造者が判断すると回答した。

<LIB 安全性技術 WG>

- ・2 月の国際会議にて、円筒セルの IEC62660-3(自動車用 LIB 安全)の Alt.ISC 試験への適用が提案された。缶の除去方法(ケース加工)について具体的

な提案があるかを確認中。他国から具体的な提案がないと試験が実施できないため、11 月予定の F2F 会議で提案内容を確認する。

<据置 LIB 分科会>

- ・IEC63056 ED2(蓄電池システム LIB 安全) CD 対応：4 月 25 日に CD が発行され、分科会で審議を行い、146 件のコメントを 6 月 20 日に、OSD(Online Standards Development)にて提出した。

<非駆動用車載 LIB 分科会>

- ・四輪自技会補機 LIB WG に参加して、鉛バッテリー代替補機用 LIB の技術要件標準化に向けた議論を行い、標準化できる仕様内容や課題を整理した。2025 年 12 月発行予定の JASO-TP 原稿確認を 9 月 25 日に行う予定。

<ニカド・ニッケル水素分科会>

- ・IEC 61951-1(ポータブル機器用途 Ni-Cd 電池性能)/IEC 61951-2(ポータブル機器用 NiMH 電池性能) ED5 対応：5 月 6 日、CD に対する各国コメントを入手。分科会で PL オプションについて審議を実施。製造者と使用者の合意がある場合は、下記のオプション適用を提案することで合意。

1) バッテリーのみを試験対象とし、単電池試験を対象外とする。

2) 一次電池規格(IEC 60086-1)と同じ製造ロット記載方法(年月、年週)を適用する。(国や地域で製造日の表記が義務化されている場合は、そちらを優先する)今後の計画は、2025 年 12 月に CDV、2026 年 6 月に FDIS、2027 年 1 月に IS 発行予定。

<産業用ニッケル水素分科会>

- ・IEC 62675 ED2(密閉型 Ni-MH 角形単電池)改訂対応：類似規格の Ni-Cd 角形単電池と同期して改訂中。主な変更点は、①Scope に“産業用”と“バッテリー”を追加、②20℃放電容量、③IR 測定、パルス放電試験。8 月 22 日に CDV が発行され、投票・コメントメ切りは 11 月 14 日。

<PSE WG>

- ・リン酸鉄系のリチウムイオン蓄電池の安全性に関し「リン酸鉄系のリチウムイオン電池の普及拡大に伴い、事故や市場トラブルの動向によって保安上規制が必要となったときは、リチウムイオン蓄電池の規制対象の範囲(400Wh/L)の見直しが必要となる」との記述があり、特に対象範囲(リチウムイオン蓄電池全体または特定の機器限定)について注視し、継続ウォッチする。

<蓄電システム WG>

- ・国土交通省より、令和 6 年版「建築設備計画基準及び資料」「建築設備設計基準及び資料」に対する意見照会の依頼があり、委員各社に意見収集を行ったが、改定意見は無かった。二次電池部会 技術委員会 充電器分科会から鉛蓄電池関係の意見が 1 件あったため、5 月 29 日 WG にて確認し、6 月 4 日に国土交通省に回答した。

<リユース規格分科会>

- ・本年 4 月、BAJ HP に「二次電池のリユース・リパース」のページを掲載、8 月時点で BAJ への問い合わせはなし。HP 記載内容に関する Q&A の素案を作成し、各委員へ追加及びコメントを検討依頼中。次回以降の分科会/TF にて審議を行う予定。

<CFP 規格分科会>

- ・GX 実現に向けたカーボンフットプリント活用に関する研究会における蓄電池業界についての研究会に参加。研究会の中間整理資料が経産省のウェブサイト公開された。

(2)技術委員会対応の活動報告

① BASC 主催 ISO/TC333 国内委員会対応

- ・2025 年度国内委員会は未開催、負極活物質の Product Category Rules(PCR)のコメント募集があり、9 月 19 日締め切り。

② 108 委員会対応

- ・2025 年度国内委員会は未開催。

◆国際電池規格委員会

- ・昨年に比べて新規開発規格が増えている。

IEC63623(LEV 用 LIB 安全)は 1 回目の審議会が開催され予定通り進捗している。

IEC63635(産業用 SIB 安全)、IEC63636(産業用 SIB 性能)の CD が回付され、日本から意見を提出。

IEC63648(廃 LIB 放電ガイダンス)は放電作業の標準化で開発は進んでいる。

- ・国際規格新エキスパートに集合研修を実施、規格の全体の状況と現エキスパートからの知見を共有した。ワシントンの国際会議に出席して海外のエキスパートとの交流の機会を設けていく。

◆国際電池輸送委員会

1.2 国連危険物輸送専門家小委員会(6 月 30 日～7 月 4 日)

- ・リチウム電池に関係する正式提案 8 件、非公式文書 17 件が議論された。2027 年に発刊されるモデル規則第 25 版の内容を決める 1 回目のセッションで、多くの提案が継続審議となったが、今後の参加が必要な活動が増えるため注意が必要。次回は 2025 年 11 月 24 日～12 月 2 日に開催予定。

UN-IWG で議論中のハザードベース区分に関しては SOC やガス試験の取り扱いの結論は出ず、終了した。2025 年 12 月 3 日～5 日で WG 実施予定。

また、多種多様の電池に対して UN 試験条件を適切にするための見直し作業と、リユース/リパース/修理品などに対する輸送ルールを検討する非公式部会：

Testing and Repair IWG が発足。本 WG に参加し、ルール形成に入っていく予定。

1.3 SAE G-27 会議

- ・技術標準 AS6413/2 の円筒セル以外の、パウチセル、角形セルについて範囲拡大の検討を開始しており、ボランティアを募集中。

毎月の定例会議、F2F 会議の参加は、プロジェクトの進捗を見計らい、慎重に判断する。

2. 小型全固体 LIB 輸送 WG

- ・ハザードベース区分による規制緩和は長期

化する可能性があり、燃焼試験で発火しない電池を除外するという日本独自提案も実施することとした。次回国連会議での正式提案を当初検討していたが、海事検定協会と相談した結果、非公式文書を提出する事とし、次々回 26 年 6 月に正式提案する事とした。

◆普及促進委員会

1. 普及促進委員会

・2026 年 3 月に経産省へ提言書の説明を計画し、前年度の電池産業課からのコメントに回答できるよう、3 つのテーマで検討を行っている。①国内電池産業支援として低 GHG 電源への支援を要望する。②資源リサイクル推進は BASC と定期的な意見交換を通じて定置用途への展開を模索する。③エネルギー安全保障としてはセル供給源が特定国に偏らないよう多角化の内容を精査する。

2. 定置用 LIB 普及強化 WG

・昨年度は海外製の三元系蓄電システムの安全性評価を実施。今年度は海外製のリン酸鉄リチウムイオン(LFP)蓄電システムを経済産業省事業の中で、シンクタンク、BAJ、NITE、蓄電池分析評価企業と共同で安全性評価を実施する計画である。
・評価項目は、蓄電システムのプロファイル、電池セルの釘刺し試験、蓄電ユニットでの類焼試験、類焼時に発生するガスの分析評価。

3. 法規 WG

・消防法規制緩和の残課題審議、消防法に関連するアーカイブ作成、危険物の規制に関する規則の一部を改正する省令(案)の通知確認、鹿児島県伊佐市メガソーラー事故対応資料確認を行った。

◆PL 委員会

・BAJ HP のリチウムイオン二次電池、ニッケル水素、ニカド電池の安全で正しい使い方を見直し更新した。
・モバイルバッテリーは PSE マーク対象後も事故は年々増加し昨年度過去最多、スマートフォン、ノートパソコンは減少傾向、電動アシスト自転車は例年並み、クリーナーは若干増加傾向、ポータブル電源はモバイ

ルバッテリー同様年々増加し昨年度過去最多。

・事故低減のアクションとしてまとめた消費者庁への提案書の内容を普及促進委員会、再資源化委員会、広報総合委員会と打合せを行いレビューした。

◆再資源化委員会

・資源循環経済小委員会の資源有効利用促進法改正動向に注視。資源法改正案が 5 月 15 日に衆議院、28 日に参議院で可決され、6 月 4 日に公布された。これにより再資源化活動について一定の影響が出るが、現時点では法令や施行規則などの詳細な規定が発表されていない。改正トピックスは、①製造事業者に再生資源の利用計画の提出と定期報告が義務化、②環境配慮設計の促進、認定制度導入、③再資源化の促進、認定を受けた事業者は特例で廃棄物処理業の許可が不要、④CE コマースの促進、CE コマース事業者の位置づけが明確化され、基準が設定。

・4 月 15 日、環境省から市町村におけるリチウム蓄電池の適正処理に関する方針と対策が通知され、市町村や製造事業者等の自主回収及び JBRC による回収への影響懸念について調査中。少しずつではあるが、自治体で動きはでてきている状況で、今後も動向に注視する。

・改正資源法が確定した段階で、識別表示ガイドラインの見直しを検討する。

◆広報総合委員会

2. 活動報告

(1) PR 活動

① コイン形・ボタン形電池の乳幼児誤飲事故防止

・8 月 29 日からInstagramショート動画を使用して啓発実施。

・育児系アプリ“mamari”に啓発記事を 12 月掲載に向け準備中。

② 自動車用バッテリーの定期点検・買い替え促進

・天気情報アプリ“tenki.jp”に youtube に動画を誘導するバナーを付けて 8 月啓発広告掲載。

- ・TOKYO FM ラジオに啓発広告を実施。
- ③ 小型充電式電池の回収・リサイクル、廃棄時の注意喚起
- ・年末の大掃除ででてくる不要になった製品を視野に、you tube でのインフルエンサーによるショート動画、神奈川県テレビ局 tvk での CM、“3 分クッキング” 月刊誌に掲載を準備中。

(2) キャンペーン

- ・9 月 1 日から「でんち川柳コンテスト」の応募開始。

(3) イベント活動

- ① 経産省こどもデーは 8 月 6 日、7 日に開催、エネルギー体験教室、手づくり乾電池教室を出展し、計 421 名のお子様に参加。
- ② 9 月 27 日、静岡科学館で電池フェスタを開催予定。

◆国際環境規制総合委員会

1.3 地域環境情報

(1) 欧州

- ・LMT 用電池のカーボンフットプリント計算手法に関する報告書の初期草案公表された。EV 用電池のカーボンフットプリント計算手法を確立する委任規則案を公開し、意見募集が開始されたが、最終的な欧州委員会による委任規則の採択は今なお未採択となっている。
- ・電池規則を一部改正し、電池デューデリジェンス義務の適用を 2025 年 8 月 18 日から 2027 年 8 月 18 日へ 2 年延期した。
- ・ECHA が PFAS 規制提案の更新版を公表、電池に直接言及している適用除外は下記 3 点がある。
 - 全電池のバインダー及び電解液は発効後 13.5 年の適用除外
 - 空気亜鉛電池及びアルカリ金属空気電池のその他電池の酸素透過膜は発効後 13.5 年適用除外
 - 全電池のセパレーターコートは発効後 6.5 年の適用除外
 これらとは別に sealing に関する適用除外も記載されている。

(2) 北米

- ・ミネソタ州は PFAS 含有製品規制法の最初の報告期限が 2026 年 1 月 1 日から 2026 年 7 月 1 日に延期することを公表した。

- ・カリフォルニア州では PFAS 含有製品規制法案修正により規制対象製品は 6 製品に限定された。

- ・コロラド州、ネブラスカ州で携帯型電池と中型電池の EPR 法が成立。

コロラド州は、2027 年 8 月 1 日以降、製品に生産者の識別、対象電池の化学的識別及び対象電池を家庭ごみとして廃棄してはならない旨の表示を行わなければならない、州内で販売・流通することができない。

ネブラスカ州は、2028 年 1 月 1 日以降、生産者または小売業者は、生産者の識別を表示していない限り、対象となる電池および電池が含まれる製品を州内で販売することはできない。また、2029 年 1 月 1 日以降、電池の化学的性質及び電池を家庭ごみとして廃棄してはならない表示も必要となる。

(4) アジア

- ・韓国で全ての電気・電子製品が EPR 及び RoHS 制度の対象になるが、「資源の節約とリサイクル促進に関する法律」で EPR の対象となっている電池(水銀電池、酸化銀電池、ニッケルカドミウム電池、リチウム一次電池、アルカリ／マンガン電池、ニッケル水素電池)は EPR、RoHS の適用除外。
- ・台湾ではリチウムイオン電池のリサイクル料金に優遇料金を設定。
- ・香港では全ての水銀含有電池の輸出、輸入、製造が禁止されることになった。

2 今後の活動計画

2.1 2026 年 6 月発行に向けて、「世界の電池環境規制の状況」第 14 版を作成。

2.2 国際会議

- ・9 月 ICBR(国際電池リサイクル会議) @バレンシアに参加、10 月 TWG+(日欧米電池専門家会議)@

メキシコに参加予定。

2.3 11月13日、JX金属サーキュラ
リユーションズ敦賀を視察予定。

4. JBRC 報告

以下の報告があった。

I. 会員状況

II. 回収状況（2025年度4-6月累計）

III. 具体的施策実施内

1. 再資源化活動の深耕と強化

5. 事務局報告

・経産省補助金公募期間が10月31日
ですので、該当案件があれば申請をお願い
します。

・次回二次電池第2部会は12月4日
（木）機械振興会館で開催予定。

以上

バッテリー先進人材普及ネットワーク（BATON）の設立 ～蓄電池国内製造能力 150GWh に必要な電池人材の 育成・確保～

2025 年 10 月 14 日（火曜日）、蓄電池の製造能力確保に必要な蓄電池に係る人材の育成・確保を、これまで実施してきた関西エリアの高校及び高等専門学校から、全国及び大学に拡げて加速する「バッテリー先進人材普及ネットワーク（BATON）」の設立が発表され、（一社）電池工業会から、只信会長が発足発表会に出席した。

（一社）電池工業会(BAJ)は、（一社）電池サプライチェーン協議会(BASC)と共に、バッテリー先進人材普及ネットワーク（BATON）に事務局として参加し、今後より多くの地域・教育機関等でのバッテリー教育実施に向けて、参画機関等と連携しながら取り組みの拡充を進めていく。

1. バッテリー先進人材普及ネットワーク（BATON）の設立について

次世代のバッテリー人材の育成・確保のため、これまで産官学が連携し、高校・高専を対象とした「関西蓄電池人材育成等コンソーシアム」が進められてきましたが、この取組を全国に拡げるとともに、対象を大学まで拡げ、バッテリー人材の育成・確保を加速すべく、「バッテリー先進人材普及ネットワーク“Battery Advanced Talent Outreach Network、以降、BATON(バトン)※1”」を設立することとしました。

経済産業省が 2022 年 8 月に策定した蓄電池産業戦略は、2030 年までに国内の電池・材料の製造基盤を 150GWh とする官民目標を掲げ、同目標の実現には、約 3 万人の電池人材の育成・確保が必要と見込まれており、人材は当戦略の柱の 1 つとなります。2022 年 8 月、産官学が連携して電池人材育成に取り組む枠組みとして、「関西蓄電池人材育成等コンソーシアム」が立ち上がり、バッテリー分野では初となる産学連携による教育プログラムのモデルケースを実施してきました。この教育プログラムの制作・展開の結果、関西の高校・高専を中心に電池教育の実施校が 30 校に拡大し、受講者は累計で約 1,500 名に達しました。こういった関西地域での成果をもとに、関西以外の地域からのプログラム普及に関する強い要望を受け、脱炭素社会・デジタル社会の実現を支える次世代の人材育成をより広く普及・啓発し、蓄電

池産業の発展に貢献を目指していくため、BATON を立ち上げる運びとなりました。

※1 BATON（バトン）には「次世代につなぐ」という意味も込められています。

2. バッテリー先進人材普及ネットワーク（BATON）発足発表会（10月14日(火)）の様子



（左から 2 番目が只信会長）

3. 経済産業省 リンク先

蓄電池の製造能力確保に必要な蓄電池に係る人材の育成・確保のために、バッテリー先進人材普及ネットワーク（BATON）を設立しました

<https://www.meti.go.jp/press/2025/10/20251016002/20251016002.html>

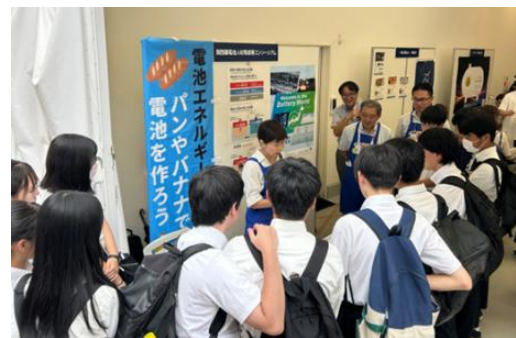
以上

大阪関西万博・蓄電池普及啓発イベント「みんなで 学ぼう！電池の仕組み・リサイクル！」へ出展協力

関西蓄電池人材育成等コンソーシアム(※)の活動の一貫として、大阪関西万博の関西パビリオン「多目的エリア」の徳島県催事にて、電池工業会は2025年10月8日(水)に「電池エネルギー体験教室」の出展を行い、計221名の方のご来場頂いた。

(一社)電池工業会(BAJ)は、近畿経済産業局、(一社)電池サプライチェーン協議会(BASC)と共に、関西蓄電池人材育成等コンソーシアムに事務局として参加した。

＜当日の電池エネルギー体験教室の様子＞



令和4年8月31日、蓄電池産業戦略検討官民協議会において策定された蓄電池産業戦略（最終とりまとめ）において、2030年までに蓄電池・材料の国内製造基盤として150GWhの製造能力を確立するべく、電池製造で合計約2.2万人、材料などサプライチェーン全体で合計約3万人、蓄電池に係る人材を育成・確保していくという目標が掲げられました。（なお、令和5年9月29日以降、蓄電池産業戦略推進会議において、蓄電池産業戦略に基づき、施策や取組の具体化に向けた議論を実施しています。）

この実現に貢献するべく、蓄電池関連産業が集積している関西エリアにおいて、産業界、教育機関、自治体、支援機関等が参画する「関西蓄電池人材育成等コンソーシアム」を設立しました。一般社団法人電池工業会（BAJ）は、近畿経済産業局、一般社団法人電池サプライチェーン協議会（BASC）とともに、本コンソーシアムの事務局として、人材育成等に向けた取組を推進します。

以上

2025 年 9 月度の電池工業会活動概要

部会	月度開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項
特別会議、他	8日(月)	新種電池研究会	新種電池に関する情報交換他
	26日(金)	広報総合委員会	啓発広告構成案すり合わせ、
二次電池部会	12日(金)	用語分科会	「SBA規格票改正の手引き」一部改正審議
	12日(金)	自動車鉛分科会	SBA規格 G 0101 自動車用鉛蓄電池の安全取扱い指針 改正案審議
	16日(火)	自動車技術サービス分科会	新規リーフレット製作に関する打合せ
	17日(水)	充電器分科会	JIS C 4402 改正審議
	17日(水)	産電リサイクル委員会、広域認定分科会	広域331号変更申請準備、広域マニュアル作成
	17日(水)	資材委員会	サプライヤー変更に伴う代替案検討
	18日(木)	据置鉛分科会	JIS C 8704-1 据置鉛蓄電池-ベント式 改正検討
	18日(木)	環境委員会	SDSガイドライン改正依頼への対応審議 他
	26日(金)	技術委員会	25年度上期分科会活動報告及び下期活動予定報告
二次電池第2部会	1日(月)	据置LIB分科会	産業用LIBのIEC規格対応
	3日(水)	技術委員会	技術全般に係る審議事項への対応
	10日(水)	定置用LIB普及強化WG	蓄電池の普及強化に向けた戦略実現検討
	11日(木)	二次電池第2部会	各委員会からの報告および審議
	12日(金)	法規WG	蓄電池の規制適正化検討
	16日(火)	非駆動用車載LIB分科会	非駆動用LIBのIEC規格策定
	17日(水)	普及促進委員会	蓄電池の普及促進に関する提言検討
	17日(水)	定置用LIB普及強化WG	蓄電池の普及強化に向けた戦略実現検討
	18日(木)	リチウム二次分科会	IEC62133-2 ED2審議
	22日(月)	小型全固体LIB輸送WG	小型全固体LIBの輸送規制に関する検討
	24日(水)	CFP規格分科会	産業用LIBのカーボンフットプリント規格対応
	25日(木)	国際電池輸送委員会	危険物輸送の国際会議に関する対応
	25日(木)	ニカド・ニッケル水素分科会	性能規格の改訂審議
一次電池部会	10日(水)	一次電池部会	各委員会からの報告および審議
	24日(水)	規格委員会	IEC60086-1,-2-1,-2-2、86-4、86-5、86-6、MT17審議
	25日(木)	規格委員会	IEC62281、JIS C 8513審議
	26日(金)	コイン形リチウム二次分科会	IEC61960-4 ED2 AMD、IEC62133-2 ED2 審議

7 月度電池販売実績（経済産業省機械統計）

（2025年 7月）

（少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

2011年1月より経済産業省の機械統計は「マンガン乾電池」を「その他の乾電池」に統合されました。

2011年1月より経済産業省の機械統計が「その他の鉛蓄電池」に「小形制御弁式」が含まれました。

2009年12月より経済産業省の機械統計が「その他のアルカリ蓄電池」に「完全密閉式」が含まれました。

「その他の鉛蓄電池」は「二輪自動車用」、「小形制御弁式」を含む。

（2011年～2012年は経済産業省機械統計の「酸化銀電池」は「その他の乾電池」を含む）

2012年より経済産業省の機械統計が「リチウムイオン蓄電池」は「車載用」が新設されました。

（2011年までの「リチウムイオン蓄電池」には「車載用」は含まれていません）

「その他の乾電池」を削除する。（2013年経済産業省機械統計より）

2017年9月より経済産業省機械統計のアルカリ乾電池「単三」「単四」は公開されていません。

2022年1月より経済産業省の機械統計は「その他のアルカリマンガン乾電池」は「アルカリ乾電池計」に統合されました。

2022年7月より経済産業省の機械統計は「アルカリ蓄電池(ニッケル・水素電池)」 「その他のアルカリ蓄電池」は「アルカリ蓄電池計」に統合されました。

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計	363,272	128,571	101%	93%	2,296,525	886,919	108%	100%
一次電池計	266,974	10,984	112%	108%	1,590,990	66,708	111%	107%
酸化銀電池	70,039	2,253	116%	125%	448,599	14,617	124%	129%
アルカリ乾電池計	109,604	4,396	107%	104%	611,985	24,273	102%	100%
単 三	—	—	—	—	—	—	—	—
単 四	—	—	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—	—	—
リチウム電池	87,331	4,335	116%	106%	530,406	27,818	113%	105%
二次電池計	96,298	117,587	79%	92%	705,535	820,211	101%	99%
鉛電池計	2,382	19,167	100%	105%	16,595	135,283	103%	108%
自動車用	1,840	12,553	102%	106%	12,805	86,855	103%	106%
その他の鉛蓄電池	542	6,614	94%	103%	3,790	48,428	102%	110%
アルカリ蓄電池計	36,913	25,032	99%	78%	233,956	159,448	112%	76%
ニッケル水素	—	—	—	—	—	—	—	—
その他のアルカリ蓄電池	—	—	—	—	—	—	—	—
リチウムイオン蓄電池計	57,003	73,388	70%	94%	454,984	525,480	96%	107%
車載用	30,395	52,021	54%	83%	280,165	406,375	86%	102%
その他	26,608	21,367	106%	140%	174,819	119,105	119%	129%

7 月度電池輸出入実績（財務省貿易統計）

（2025 年 7 月）

（少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

2012 年より二次電池の輸入項目「その他の二次」が「ニッケル水素」「リチウムイオン」「その他の二次」に分かれました。

2016 年より一次電池の輸入項目「アルカリ」が「アルカリボタン」「アルカリその他」に分かれました。

	単 月				1 月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計（輸 出）	170,037	71,059	97%	93%	1,229,674	475,083	112%	105%
一次電池計	122,816	4,345	123%	115%	796,202	28,561	125%	119%
マンガン	0	0	－	－	40	1	－	－
アルカリ	9,816	228	353%	245%	72,421	1,712	123%	115%
酸化銀	60,699	1,732	110%	105%	403,954	11,741	126%	126%
リチウム	52,302	2,322	124%	120%	319,787	14,998	125%	116%
空気亜鉛	0	0	－	－	0	0	－	－
その他の一次	0	63	136%	85%	0	109	23%	62%
二次電池計	47,220	66,714	63%	92%	433,471	446,522	94%	104%
鉛蓄電池	136	1,208	89%	90%	921	8,377	99%	100%
ニカド	100	66	117%	86%	985	559	96%	143%
ニッケル鉄	0	0	－	－	0	0	－	－
ニッケル水素	10,279	16,016	71%	88%	66,733	107,432	90%	107%
リチウムイオン	24,066	44,742	48%	95%	282,774	297,053	89%	107%
その他の二次	12,640	4,682	124%	83%	82,058	33,102	118%	81%
全電池合計（輸 入）	147,472	44,244	97%	97%	926,359	320,731	108%	97%
一次電池計	139,274	2,928	97%	84%	868,285	19,207	108%	109%
マンガン	7,882	129	131%	99%	54,202	929	100%	101%
アルカリボタン	2,121	22	171%	92%	21,501	219	123%	115%
アルカリその他	108,921	1,695	97%	98%	665,350	10,779	110%	110%
酸化銀	101	7	60%	113%	1,302	74	118%	126%
リチウム	15,424	936	111%	107%	92,010	5,431	114%	124%
空気亜鉛	4,805	93	54%	52%	33,892	685	87%	86%
その他の一次	20	47	58%	9%	28	1,090	46%	74%
二次電池計	8,198	41,316	96%	98%	58,074	301,524	109%	96%
鉛蓄電池	885	5,279	100%	97%	6,119	37,762	107%	107%
ニカド	30	180	26%	87%	324	1,304	77%	81%
ニッケル鉄	0	0	－	－	0	0	－	－
ニッケル水素	1,510	455	55%	97%	12,345	3,038	97%	114%
リチウムイオン	5,680	32,292	119%	107%	38,751	240,074	112%	105%
その他の二次	94	3,110	1471%	52%	535	19,346	899%	42%